

倉賀野めぐり

歴史と景観



倉賀野（英泉 木曾路街道六十九次）

倉賀野の歴史

五世紀頃、この地域には浅間山古墳などの大古墳が築造された。やがて平安時代になると宮原荘と呼ばれる荘園が置かれた。鎌倉時代、この地に落ち着いた武蔵児玉党の子孫が倉賀野氏を名のり、南北朝の頃に戦略的に重要な拠点として倉賀野城を築城した。戦国時代には上杉、武田、北条氏の勢力争いに巻き込まれ、倉賀野城は天正十八年（1590）に陥落し廃城となった。

江戸時代に入り中山道が整備されると、倉賀野宿には本陣、脇本陣が置かれ日光例幣使道への分岐点も設けられた。また、烏川には倉賀野河岸が整備され、江戸と諸国とを結ぶ物資輸送の中継地であったことから、宿場は参勤交代や旅人、船頭、人足、町人などで大変賑わった。享和三年（1803）の記録によると、家数四百五十三軒、旅籠六十四軒、人口二千五百六十六人にもおよび、当時の繁栄ぶりが偲ばれる。

街道

1 中山道（六十九次）

五街道のひとつ。江戸と京都を結ぶ。倉賀野宿は江戸日本橋から十一番目で、上野の七宿、新町、倉賀野、高崎、板鼻、安中、松井田、坂本（の）のひとつ。



常夜灯・道しるべ

2 日光例幣使道

中山道を倉賀野宿で分かれ日光に至る街道。日光東照宮の毎年の例祭に合わせて、京の朝廷から金の御幣を託された例幣使の日光への参拜道。

3 道しるべ（市指定史跡）

中山道と日光例幣使道の分岐点にあり、「従是右江戸道、左日光道」と刻まれる。

4 常夜灯（市指定史跡）

道しるべの背後に立ち、西面、日光道、南面に、中山道、北面に、常夜燈、東面に、文化十一年甲戌正月十四日 高橋佳年文書とある。寄進者名の中に江戸相撲、雷電為右工門の名も刻まれる。

宿場と河岸

5 本陣 脇本陣

倉賀野には、本陣がひとつ、現在スーパー丸幸の場所と、脇本陣が二つ設けられていた。本陣は大名や公家用で、脇本陣にはその家来や一般の人が宿泊した。

脇本陣跡 須賀家（非公開）

（たかさき都市景観賞）
河岸間屋で脇本陣。現在の建物は明治に遡り、連子格子の主屋と付属屋、番人小屋、白壁の塀が目を引き、裏手の薬医門や桁行十間の土蔵、味噌蔵などは江戸期と伝えられる。

6 御伝馬（人馬継立場）

伝馬制は、宿から次の宿へ、大名や公用の荷物を運ぶための人足と馬を常備することが幕府より義務づけられ、天保十四年（1843）には継立場が三箇所あった記録がある。現在、街道の南に碑があるが、本来は北側にあったと伝えられている。

7 高札場

江戸時代、往来の多いところに、法令、禁令などを掲示した場所。

8 木戸

倉賀野宿には、中山道の京方向に上の木戸、江戸方向に下の木戸が置かれた。

9 五貫堀

長野堰幹線水路を倉賀野堰で分水した倉賀野地区の水田を潤す水路。蓋を敷設し暗渠化される以前、水車が設けられ、魚獲りもできた。



高瀬舟



大正13年当時の太鼓樓



五貫堀



高札場



脇本陣跡



常夜灯・道しるべ

10 太鼓橋
宿場町の旅籠の拠金によって石造りの太鼓橋に架け換えられた。伝聞では飯盛宿の女衆の拠金によるものとされる。

11 古堤、新堤

倉賀野堰は長野堰末流にあたる。下流地域で不足する農業用水の溜池。

12 倉賀野河岸

江戸から利根川、烏川を経た終点の船着場として繁栄。水運によって江戸へは廻米などを、帰路には塩、茶、干魚などを輸送した。その後、明治期に鉄道が開通したためその役目を終えた。

河岸道

中山道から井戸八幡宮への参道を通って河岸に至る道と、横町から南へ下る道が河岸道といわれている。荷下ろしなどで他の通行の妨げにならないように道端がノコギリ状になっている。

牛街道

河岸と中山道沿いの間屋場を結ぶ河岸道のひとつ。この名は荷を運ぶ牛車が頻繁に通ることによる。

大杉神社

常陸国阿波（茨城県）の大杉神社から勧請。水難除けの神として船頭たちの信仰を集めた。

歴史を偲ぶ建物

13 大黒屋（非公開）

（たかさき都市景観賞）
中山道からの路地（郷蔵道）にナマコ壁をみせる明治期の蔵造り商家。かつては穀物商。

14 大黒屋（非公開）

（たかさき都市景観賞）
昭和八年（1933）、中山道拡張の際に建築。主屋、堀門、土蔵が整った景観をみせる。

15 吉野家「叶屋」（非公開）

かつては造り酒屋で、屋号が「叶屋」。主屋は明治期の建造で、正面に嵌められた連子格子が美しく、また通り庭の痕跡に造り酒屋当時の風情が残る。

16 清塚家（非公開）

主屋は典型的な明治期の養蚕農家。他に土蔵、物置、庭、垣根やカシグネなどがあり、かつての農家の屋敷構えがみられる。

17 平井家（非公開）

倉賀野では珍しい長屋門から、江戸期建造といわれる主屋が望める。周りには土蔵、裏庭に井戸が配置された農家の佇まい。長屋門の西は物置、東は馬屋、二階は番頭が使用していた。

寺・神社・まちの史跡

18 安楽寺（天台宗）

「七仏薬師さま」（県指定史跡）の名前もある古刹。薬師さまのご開帳は十一年に一度、巳年。本堂の裏山は横六式石室の古墳（県指定史跡）。

19 永泉寺（曹洞宗）

天正元年（1573）、倉賀野城主、金井淡路守の開基。境内の「幽霊石」にまつわる伝説が残る。

20 九品寺（浄土宗）

倉賀野五郎行信の開基で、倉賀野氏ゆかりの寺。中世の善光寺三尊像は市指定重要文化財。



養報寺「石仏五体」



安楽寺「七仏薬師さま」



平井家



清塚家



吉野家「叶屋」



大黒屋



大黒屋「大黒屋」



道端がノコギリ状になっている牛街道

21 養報寺（真言宗）

本堂内に「三十四体仏」を祀る。境内に鎌倉時代といわれる長賀寺の石仏五体は市指定重要文化財。また、高崎の俳人、村上鬼城の句碑は市指定重要文化財。句碑の第一号である。

22 林西寺（真言宗）

永正十三年（1516）、法印兼傳和尚開山の寺。本尊は阿彌陀三尊、境内の入り口には馬頭、清水、宮原十一面の観音さまが祀られる。

23 倉賀野神社（本殿 元治二年（1865）上棟 市指定重要文化財）

倉賀野宿と近隣七ヶ郷の総鎮守で旧社名飯玉宮。境内に、冠稲荷、北向道祖神、飯塚久敏と良寛の碑など、算額や飯盛女寄進の玉垣もある。

24 井戸八幡宮

正保三年（1646）、倉賀野城三の廓跡に一夜にして出現した井戸が起源と伝えられる神社。井戸はいまも残る。

25 諏訪神社

永禄年間（1558～1569）に倉賀野城主、金井淡路守が信州諏訪大社より勧請と伝えられる。境内には奉納相撲の土俵がある。

26 冠稲荷（別名 三光寺稲荷）

倉賀野宿のほぼ中央にあり、旅籠や飯盛女の信仰を集める。明治四十二年（1909）、倉賀野神社に合祀され一度は廃絶されたが、後に社殿を再建。

27 閻魔堂

江戸時代には阿彌陀堂と呼ばれ、閻魔堂の呼称は明治以降。閻魔大王は地藏菩薩の化身といわれ、信仰すれば地獄に落ちず、救われるといわれている。

28 御嶽山

塔には、慶応四年戊辰正月吉日 御嶽山座王大権現 永泉主龍拜書」と記されている。この碑にたつ築山に、他に八基の文字碑がある。もとは浅間山古墳にあったもの。

29 獅子頭（田子屋の獅子）と八坂社

明治末頃まで八坂社が祀られていた。獅子頭を納めた長持ちに宝暦七年（1757）とある。雨乞いや疫病除けで獅子が宿内を廻る。

30 浅間山古墳（国指定史跡）

かつては倉賀野古墳群といわれる大小三百基以上の古墳が存在した。浅間山古墳は全長約百七十三メートル、群馬県第二位の大きさ。大鶴巻古墳は全長約百二十三メートル、いずれも五世紀前半の築造といわれる前方後円墳。円筒埴輪や器埴輪などが出土している。

31 倉賀野城跡

鎌倉時代、武州児玉党の流れをくむ一族が倉賀野氏を名のり、十四世紀末にその子孫が倉賀野城を築城。戦国期、上杉、武田、後北条の勢力の狭間で、天正十八年（1590）、豊臣秀吉の小田原攻めの際に陥落。現在、雁公園に城址碑がある。

32 道しるべ

倉賀野公民館前に立つ。正面に、左ステーション道、右手に、向 倉賀野停車場線、裏面に、倉賀野町役場、倉賀野尋常高等小学校道」とある。以前は中山道と山名道の交差点北東隅に立つ。



倉賀野城址から見た烏川



浅間山古墳



獅子頭



御嶽山



閻魔さま



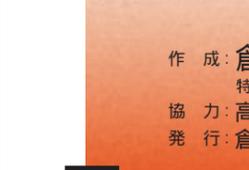
閻魔堂



井戸八幡宮の井戸



倉賀野神社



村上鬼城の句碑